

ICT活用「みんなで研修」プログラム⑫

1人1台端末を活用した家庭学習の充実

北海道教育庁ICT教育推進局ICT教育推進課

内 容

- 1 1人1台端末を活用した家庭学習の考え方
- 2 家庭学習における1人1台端末の活用例
- 3 取組に当たっての留意事項と参考資料

1 1人1台端末を活用した

家庭学習の考え方



学習指導要領における家庭学習の位置付け

小学校学習指導要領 第1章 総則

第1 小学校教育の基本と教育課程の役割

2 (1)

基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。その際、児童の発達の段階を考慮して、児童の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮すること。

学習習慣の確立を重視

学習指導要領における家庭学習の位置付け

小学校学習指導要領解説 総則編

第3章 教育課程の編成及び実施

第1節 2 (1)

(略) 加えて本項では、「家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮すること」の重要性を示している。小学校教育の早い段階で学習習慣を確立することは、その後の生涯にわたる学習に影響する極めて重要な課題であることから、家庭との連携を図りながら、宿題や予習・復習など家庭での学習課題を適切に課したり、発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促したりするなど家庭学習も視野に入れた指導を行う必要がある。

学習習慣の確立は、生涯にわたる学習に影響

学習指導要領における家庭学習の位置付け

小学校学習指導要領解説 総則編

第3章 教育課程の編成及び実施

第1節 2 (1)

(略) 加えて本項では、「家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮すること」の重要性を示している。小学校教育の早い段階で学習習慣を確立することは、その後の生涯にわたる学習に影響する極めて重要な課題であることから、家庭との連携を図りながら、宿題や予習・復習など家庭での学習課題を適切に課したり、発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促したりするなど家庭学習も視野に入れた指導を行う必要がある。

学校での学びを補完

子どもが自ら計画を立て、学び方を考えながら学ぶ力の育成

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）

第1部 総論

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

子供がICTを日常的に活用することにより、自ら見通しを立てたり、学習の状況を把握し、新たな学習方法を見いだしたり、自ら学び直しや発展的な学習を行いやすくなったりする等の効果が生まれることが期待される。

ICTを活用した「個別最適な学び」の充実

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、
協働的な学びの実現～（答申）

令和3年1月26日
中央教育審議会

2 家庭学習における1人1台端末の活用例



教育におけるICT活用の特性・強み及びその効果

①多様で大量の情報を収集、整理・分析、まとめ、表現することなどができ、カスタマイズが容易であること。

→ インターネットを用いた調べ学習やプレゼンテーションソフトを用いた学習のまとめ など

②時間や空間を問わずに、音声・画像・データ等を蓄積・送受信でき、時間的・空間的制約を超えること。

→ 写真や動画の撮影やそれらを生かした学習の振り返り など

③距離に関わりなく相互に情報の発信・受信のやりとりができるという、双方向性を有すること。

→ クラウドサービスを用いた他者との意見共有やアイデアの創出、発表資料等の協働制作 など

家庭における1人1台端末の活用例

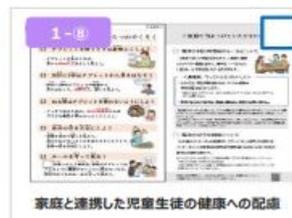
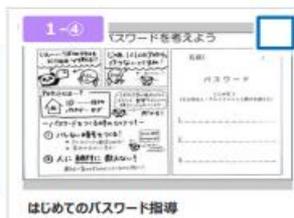
家庭でのICT端末活用の実践事例× StuDX Style



StuDX Style掲載の事例の中から、家庭での1人1台端末を活用した学習などの事例を紹介

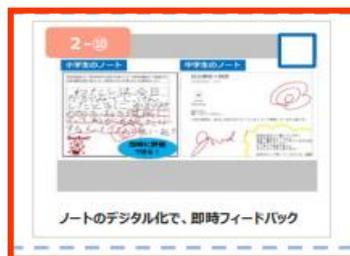
ICT端末を活用して、自宅等で学習を日常的に行うことは、**家庭学習の質を高めるだけでなく、自立した学習者を育成する上でも必要**です。ICT 端末の持ち帰りを安全・安心に行うためには、環境づくりに取り組むとともに、端末の管理の仕方や学習の目的・内容を、児童生徒・保護者と共有することが重要です。

家庭で端末を活用する上で、**学校と保護者等との間で確認・共有しておくことが望ましいポイント**

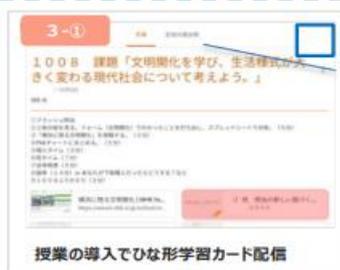


(例)
 ○端末を使用する際に良い姿勢を保ち、机と椅子の高さを正しく合わせて、目と端末の画面との距離を30cm以上離す
 ○就寝1時間前からICT機器の利用を控える

家庭学習に使える活用事例



ちょっとした工夫で家庭学習に使える活用事例



家庭学習用ワークシートを配信して、端末を使って調べたり、まとめたりする。自宅にいながら、**友達と協力して課題に取り組むことも可能。**



課題について、オンライン上のデジタルホワイトボードに個人の考えを共有し、授業中の協力を促進する。



ここに掲載されている事例は一例であり、それぞれの学校の実態、児童生徒の発達段階
 文部科学省 StuDX Styleウェブサイト <https://www.mext.go.jp/studxstyle/special/32.html>

<https://www.mext.go.jp/studxstyle/special/32.html>

ノートのデジタル化で即時のフィードバック

教師と子供がつながる

ノートのデジタル化で、即時のフィードバック

■校種・学年：小学校以上

■活用の概要：

これまででは、教師がノートを取り出して児童生徒の学習成果を確認する場合、返却が翌日になるなど、即時のフィードバックを行うことが難しいことがあった。そこで、教師が文書作成ソフトでテンプレートを用意したり、学習支援ソフトの提出機能を活用したりして、まとめの段階のノートをデジタル化して児童生徒と共有するようになった。

教師が手書き機能やコメント機能を活用し、即時のフィードバックを行った。児童生徒は、取組に対するコメントが得られることでモチベーションが高まり、より熱心に取り組むようになった。

さらに、ノートを学級や学年で共有し児童生徒同士でも見られるようにした。児童生徒が多様な考えやまとめ方を互いに見ることができ、友達のような取組を取り入れたり、自分のノートのとり方に気付いたりすることや、モチベーションを維持しながら学習に取り組むことにつながった。

■準備するもの：

- ・文書作成ソフト
- ・学習支援ソフト

教師と児童生徒のノート共有



ノートのデジタル化と共有 即時のフィードバック

児童生徒同士の ノート共有

モチベーションの向上 まとめる力の向上

教師と児童生徒のノート共有



児童生徒が取り組んだノートはファイル共有機能で教師側でも見ることができるようになった。教師は画面でノートの内容を確認し、フィードバックを行った。

小学生のノート



はじめは教師が手書き機能やスタンプを使ってフィードバックを行うことで、モチベーションの向上を図った。児童生徒が慣れてくると、音声や動画を挿入するなど工夫したノートが見られるようになった。教師も文字入力や手書きを組み合わせてコメントしている。

児童生徒同士のノート共有



ノートを学級や学年で共有することで、他の児童生徒の作成物を見ることができるようになっている。他の人の考えやノートの取組の方向性を知ることができ、自分のノートへの反響も受けるため、まとめる力がモチベーションの向上につながった。

■アドバイザーからのコメント

児童生徒と教師のノートのやり取りは、回収・コメント・返却に時間がかかります。ノートをデジタル化して共有すると、教師が書き込んだコメントは即時に反映されるため、児童生徒はすぐにフィードバックを得ることができます。ここでは、まとめの段階で共有している事例として紹介していますが、実際の授業では各自が作業をする段階から共有することも多いでしょう。もちろんそのような活用も可能です。

また、共有したノートは児童生徒が互いに参考にした。コメントやアドバイスを交わしたりして、学習意欲の向上を図ることにもつながることがあります。

ノートのデジタル化は、教師がデジタルを活用して児童生徒のモチベーションを高める効果的な方法の一つと言えるでしょう。

- ▶ ノートをデジタル化して共有
- ▶ 教師が書き込んだコメントは家庭でも確認可能
- ▶ 友達のノートを参考にしたり相互にコメントしたりすることで家庭学習が充実

道内における実践例

石狩市立石狩中学校の取組

「学びのカルテ」の作成

→ これまでの学習を振り返り、家庭学習を見直す

1人1台端末とAIドリルを用いた家庭学習

→ 学習内容の定着

「家庭学習計画表」を作成・活用

→ 学習習慣の定着

チャレンジテストを用いた取組の検証

「学びのカルテ」の改善

→ 長期休業期間の取組を踏まえて、生徒自身が改善

道内における実践例

○ 1人1台端末とAIドリルの活用

The screenshot displays a user interface for a learning management system. At the top, it shows the user's name 'がくしゅうもくひょう' and '学習目標' (Learning Objective). A red banner indicates 'のこり 57 ユニット' (Remaining 57 Units). The main area features two progress cards for '6/16 単元テストに向けて' and '小テストに向けて', both with a 'しめさり' (Deadline) of '2023 6.29' and a progress indicator 'たっせいりつ 0/100'. To the right, a 'こんげつ 今月のログインカレンダー' (Monthly Login Calendar) shows a grid of dates from 25 to 5. Below the calendar is a 'せんせい 先生からのメッセージ' (Message from Teacher) section. At the bottom, there are buttons for 'ドリル' (Drills) and '教科書' (Textbooks), both with 'えら 選ぶ' (Choose) options. A yellow callout box highlights the text: '生徒は自身の学習状況に応じて 取り組む内容を選択' (Students choose content to work on based on their learning status). Another yellow callout box highlights: '教師は生徒個々のつまづきに応じて 課題を提示' (Teachers present assignments based on individual student difficulties).

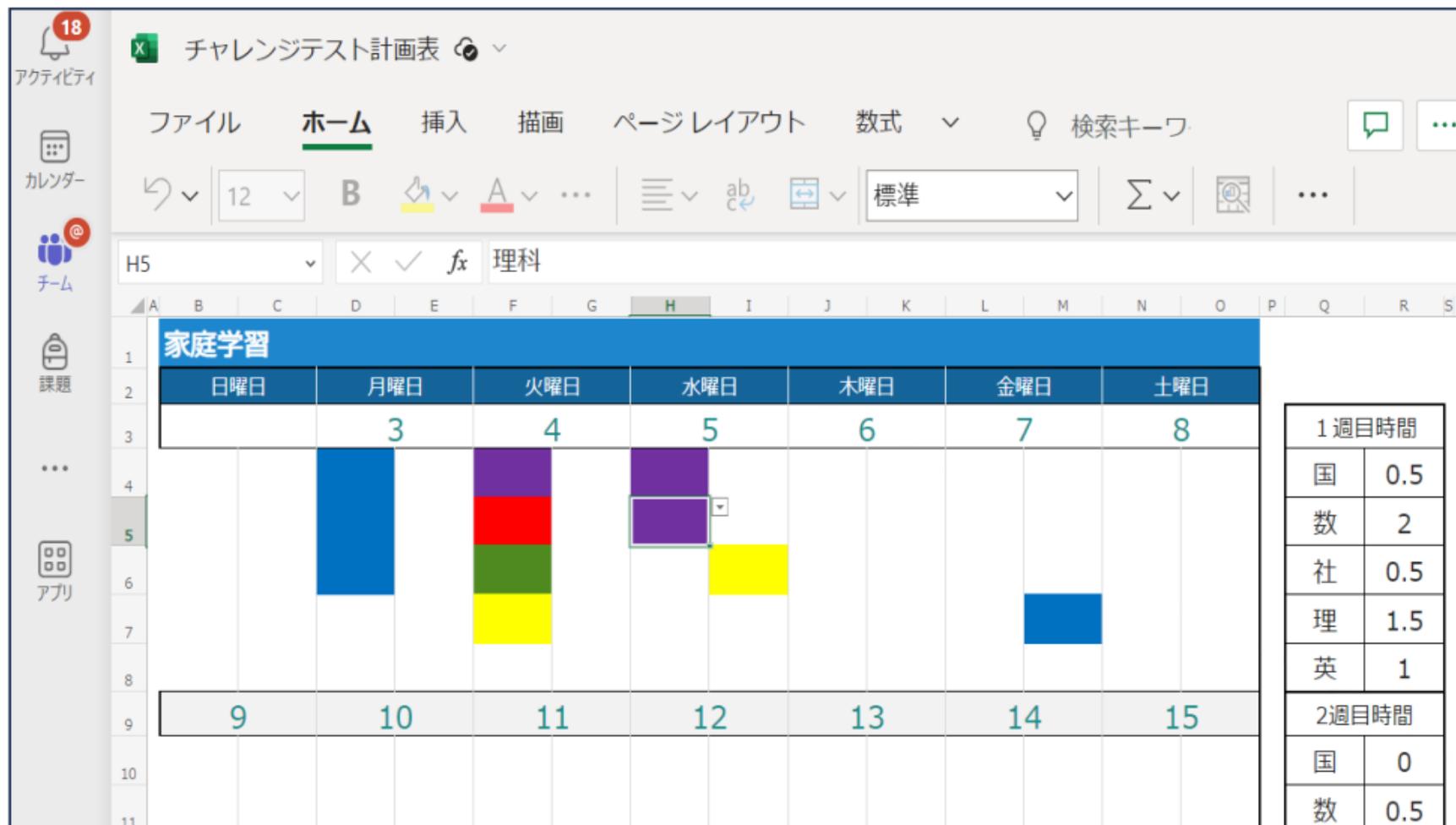
生徒は自身の学習状況に応じて
取り組む内容を選択

教師は生徒個々のつまづきに
応じて課題を提示

道内における実践例

○ 家庭学習計画表の取組

※カラーに差し替え予定



家庭学習の計画表をクラウド上に保存して生徒と教師が共有

3 取組に当たっての留意事項と参考資料



家庭との連携

○ 学校設置者・学校・保護者等との間で 確認・共有しておくことが望ましい主なポイント

別添 3

学校設置者・学校・保護者等との間で確認・共有しておくことが
望ましい主なポイント

(基本的な考え方)

- GIGA スクール構想で整備された1人1台端末については、教育の質の向上に効果的であり、それを積極的に活用していく観点から、児童生徒が安全・安心に端末を使用できるようにするため、「学校におけるICT環境の活用チェックリスト」(別添1)を参照しながら、学校設置者や学校現場において事前に十分な準備等を行うことが必要です。
- その際、特に児童生徒に対し、安全・安心に利用するための使用ルールなどを指導するだけでなく、保護者や地域の方々など関係者にも理解と協力を得ながら、児童生徒が安心・安全に端末を利用できる環境を整えることが重要です。
- このため、学校設置者・学校・保護者等との間で共通理解を図っておくことが望ましい主なポイントを下記の通り整理したので、保護者説明会やお便り・文書等の配布などにより、周知を徹底してください。
(内容に応じて、児童生徒本人に対しても確認・指導してください。)
- また、保護者や児童生徒の意見・課題などを聞き取りながら対応を進めるとともに、より活用しやすくするよう見直し・工夫することが重要です。

1. 児童生徒が端末を安全・安心に活用するために
気を付けること
2. 端末・インターネットの特性と個人情報の扱い方
3. 健康面への配慮
4. トラブルが起きた場合の連絡や問合せ方法等の情報
共有の仕組み

- ▶ 児童生徒が安全・安心に端末を使用する上で、**保護者や**地域の方々など**関係者にも理解と協力**を得ながら環境を整えることが**重要**
- ▶ 学校設置者・学校・保護者等との間で**確認・共有**しておくことが望ましい**主なポイント**を整理



https://www.mext.go.jp/content/20220303-mxt_shuukyo01-000020967_4.pdf

健康面への配慮

○ 端末利用に当たっての 児童生徒の健康への配慮等に関する啓発リーフレット

児童用

タブレットを使うときの5つのやくそく

- タブレットを使うときは姿勢よくしよう
・タブレットを使うときは、
目から30cm以上はなして見よう。
- 30分に1回はタブレットから目をはなそう
・30分に1回はタブレットの画面から
目をはなして、20秒以上、遠くを見よう。
- ねる前はタブレットを使わないようにしましょう
・ぐっすりねるために、ねる1時間前からは
デジタル機器を使わないようにしましょう。
- 自分の目を大切にしよう
・時間を決めて遠くを見たり、
目がかわかないようにまばたきをしたりして、
自分の目を大切にしよう。
- ルールを守って使おう
・ 分使ったら1回休み、学
べんきょうに関係のないこと
学校やおうちのルールを守っ

児童用

保護者用

端末の時代となりましたー つけていただきたいこと①

ときの健康面の注意点について

健康面でのポイントを、本人の習慣として身にも指導しますが、特に低年齢のお子さまの方にも気にかけていただけると効果的です。



から30cm以上、離して使う
い姿勢を保つことが重要です。お子さまの成長に
の高さを正しく合わせることも必要です。

20秒以上画面から目を離して、
に合わせて、画面の明るさを調整する
宅で使用する際には、昼間に学校の教室で
、明るさ（輝度）を下げます。
への映り込みを防止するために、

※①や②は、紙

保護者用

- ▶ 文部科学省のwebページに「児童用」「生徒用」「保護者用」のリーフレットを掲載
- ▶ 端末を使用する際の姿勢や目の健康に関する配慮事項等を具体的に記載



MEXCBTの活用

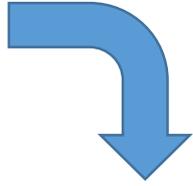
○ 文部科学省CBTシステム MEXCBT（メクビット）の活用

文部科学省CBTシステム（MEXCBT：メクビット）について

- 小・中・高等学校等の子供の学びの保障の観点から、**児童生徒が学校や家庭において、学習やアセスメントができるCBTシステム**
- 文部科学省が開発（事業者連合体のコンソーシアムに委託）
- 国や地方自治体等の公的機関等が作成した問題約4万問を活用可能
- 現在、公立小学校の70%超、公立中学校のほぼ全てが登録（ほぼ全ての自治体、約2.5万校、児童生徒等約800万人が登録）
【令和5年6月現在】
- 「GIGAスクール構想」により実現する**た「デジタルならではの学び」を実現**

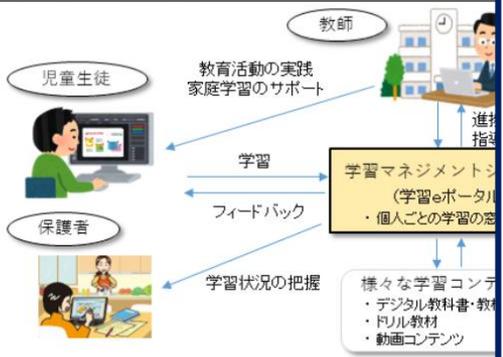


1. MEXCBTの概要
2. MEXCBTの活用事例の紹介
3. MEXCBTを活用した地方自治体



【広島県】福山市立深津小学校

活用の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに研修を実施し、学級の設定などを済ませた上で、学級への問題の配布の仕方について全教員と確認した。 ・学校では帯タイム（1日15分）や、家庭学習の課題として利用している。 ・単元の学習が終わった後、学習内容の理解を確認するために利用している。
児童生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・配布された課題を開いて、自分のペースで問題に取り組むことができた。 ・考える問題が多く難しいところもあるが、解くことができた時、喜びや達成感を感じている。
教員の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の解答状況を把握することができ、支援の必要な児童にすぐに声をかけることができています。 ・単元ごとの問題をプレテストとして活用している。 ・コロナによる臨時休業中でも、課題を配布し、業務軽減につながった。
今後の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が身につけた知識を活用する力を見取るための活用。 ・学級閉鎖中や長期休業中の学習、家庭での自主学習などへの



家庭学習などにおける活用事例を掲載

学校HPのURL
<http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/shou-fukatsu/>



実践の参考となる資料

○ ICT端末を活用した家庭学習の手引

ICT端末を活用した家庭学習の手引

手引の内容

- 1 自ら学び続ける子どもの育成を目指して
- 2 1人1台端末を活用した家庭学習の姿
- 3 授業×1人1台端末×家庭学習
- 4 1人1台端末の活用に向けた注意点



令和5年6月
北海道教育委員会

2 1人1台端末を活用した家庭学習の姿

1人1台端末を活用して、家庭学習を学校の授業と結び付けることにより、子どもたちの学びは一層深まります。

子ども 個別で学習できる内容を家庭学習として行うことで、学校の授業では友達との協働的な学びに十分な時間を充てることができます。

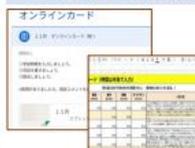
教員 クラウドサービスを活用することで、子どもたちの家に対して適切で効率的な支援ができます。

ノートのデジタル化で即時のフィードバック



ノートをデジタル化して共有すると、教師が書き込んだコメントが反映されるため、家庭においても、子どもたちはフィードバックを得られます。また、共有したノート子どもたちが互いに参考したり、コメントやアドバイスを交わしたりすることで、家庭学習の充実にもつながります。

家庭学習カードのオンラインカード



承認ソフトで作成した家庭学習カードを共有することで、学習の予定や家庭学習の記録などを記録することが可能になります。家庭では、こうした記録を基に、子どもを把握したり、取組に対して支援したりできます。

学習カードや家庭学習用のワークシートの配信



グループで協働学習を行う際、授業の導入時に学習カードなどの配布を配信することにより、子どもたちは共同編集しながら学習を進めることができます。同時に、教師が家庭学習用のワークシートを配信することにより、家庭でも端末を使って調べたり、友達と協力して課題に取り組みやすくなります。

付箋操作のオンライン



クラウド上のホワイトボードで付箋の移動や削除を行うことにより、協力して情報整理・分析したりすることができます。家庭では、子どもたちが課題に対する記入し、次の授業の準備を行うことができます。

参考: 『StuID Style』 家庭でのICT端末活用の実践事例×StuID Style (文部科学省) https://www.mext.go.jp/content/20220901_mst_

*日頃から、持ち帰った1人1台端末を活用して家庭学習を行うことは、非時休業等の非常時における学びの継続を円滑に行うことにつながります。
*家庭に限らず、公民館や図書館、放課後児童クラブなど様々な場所で1人1台端末が活用できるなど、子どもたちの学びを支援する取組が広がっています。

3 授業×1人1台端末×家庭学習

子どもたちが自主的に家庭学習を進めていくことができるよう、授業と家庭学習との関連を図ることが大切です。

①「課題の設定」の場面

授業での取組

比較できる資料を提示するなどし、子どもたちが自ら課題をもち、計画的に課題解決に取り組むことができるようにします。

家庭学習でも

思いついた解決策を、クラウド上に残しておこう。
解決に向けて、学習活動の計画を立てておこう。

②「情報収集」の場面

授業での取組

情報収集や蓄積の仕方、活用方法を指導し、子どもたちが必要な情報を収集し活用できるようにします。

家庭学習でも

教科書や資料集の内容をクラウド上にまとめておこう。
放課後に地域の人に取材をしたデータを保存しよう。

④「まとめ・表現」の場面

授業での取組

まとめや発表の練習の様子を画像や動画等でクラウド上に蓄積し、子どもたちが自ら振り返ることができるようにします。

家庭学習でも

相手に伝わりやすいように、発表原稿の構成を変えよう。

③「整理・分析」の場面

授業での取組

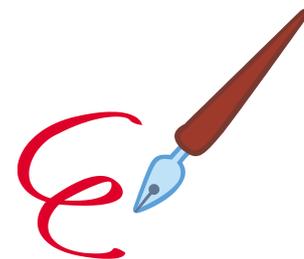
情報を整理・分析したことをクラウド上に蓄積し、子どもたちが個々の学びを共有できるようにします。



端末を活用した実践事例や留意事項を記載

振り返り

これまでの説明を踏まえ、皆さんの学校では1人1台端末を活用した家庭学習の充実に向けて、どのような取組が必要でしょうか。



ICT活用「みんなで研修」プログラム

- ▶ ICT活用の基本的なポイントを短時間で
- ▶ 職員会議や校内研修などの機会にみんなで研修
- ▶ 本道における取組を紹介
- ▶ 幅広いテーマの研修資料を追加

アンケートの入力を
お願いします。

